

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)小田原本町2丁目計画	階数	10F、地下1F
建設地	小田原市本町2丁目181番17	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	187人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2018年11月 予定	評価の実施日	2017年7月6日
敷地面積	1,217㎡	作成者	㈱クワラ都市建築設計
建築面積	656㎡	確認日	2017年7月7日
延床面積	5,342㎡	確認者	㈱クワラ都市建築設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.3

LR のスコア = 2.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
良好な都市環境を形成し、賑わいのある街並みを維持するよう努める計画とした。		
Q1 室内環境 外皮性能として、断熱性能等級等級4を取得予定の計画として省エネルギーにおいて快適な室内環境を整えるよう努めた。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長くするように努めた。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内には適切に緑化を施すことで地表温度上昇を極力抑える計画とした。
LR1 エネルギー LED照明を採用することでエネルギー使用の高効率化を図り環境負荷の低減に努めた。	LR2 資源・マテリアル LGS工法又は木下地工法とし、躯体と仕上げが容易に分別可能な計画とした。	LR3 敷地外環境 駐車場及び駐輪場(バイクも含む)を設置して交通負荷抑制に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される